令和7年度 学校経営方針

I 教育目標と目指す学校の姿

学びを高める子ども
— 楽しい・美しい・鍛え合う学校 —

II 年度重点目標

自他のよさを認め、よりよい学校生活をつくりだす子どもの育成
～ 表現力の高まりを目指して ～

III 学校経営方針

見附第二小学校は、豊かな自然や少人数のよさを生かす教育に伝統的に取り組んできた。こうした伝統を継承しつつ、現在の子どもの実態を見つめ、当該年度の重点を設定し、子どもの力を育んでいく。

令和7年度も、前年度までの成果を基盤に、地域の教育資源、小規模校のよさ・強みを生かし、職員全員で全児童を育てる構えを大切にしていこう。そして、見附第二小学校でしか経験できない、見附第二小学校だから経験できる活動「杉沢の森探検」「臨海教室」「スキー教室」「サケの稚魚放流」等を中心に感性を高める教育を推進していく。

職員の得意分野を生かした教科・分掌についても配置を図る。また、授業時数を文部科学省の通知基準に合わせてると共に、安全安心の観点から、夕暮れが早まる時期の下校時刻に対応した校時表を編成し実施する。

1 子どもが通ってよかったと思える学校 —地域の教育資源、小規模校のよさを生かす教育—

子どもたちにとって、十分楽しい学校になっている。そして、美しい感性を育み、友達と切磋琢磨し、鍛え合う学校もほぼ具現している。その中で中学校への進学で大人数になることを念頭に、個々の「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心身」の向上と共に表現力の高まりも目指していく。そのために、次の取組を行う。

(1) 確かな学力 ～基礎基本を身に付け、深く考える子どもの育成～

ア 基礎基本の定着を図る取組

(ア) 家庭学習の活性化

- 「杉の子家庭学習ナビ」の活用
- 「ナビ・タブレット版」の活用
- 家庭学習プランニングの実施

(イ) 基礎基本定着の確認と徹底

- 月例漢字・計算テストの実施

イ 主体的な学びをつくる取組

(ア) 授業改善

- 少人数の特質を生かした支援
- 交流する場面での手立ての工夫

(イ) 学び方の習得

- 「杉の子できる・わかるナビ」を活用した指導の実施

(2) 豊かな心 ～自他を大切にのびのびと生活する子どもの育成～

ア 社会性を育む取組

(ア) 体験活動とリンクさせた指導

- 豊かな体験活動の創出
- ・総合的な学習の時間指導計画「杉の子プラン」の活用
- ・地域と協働する活動の実施
- ・異年齢集団活動の充実
- 体験活動事前・事後学習の充実
- ・めあて立てと振り返りの実施

(イ) 自己理解や他者理解を促す指導

- 自他のよさに気付くための手立ての工夫
- ・縦割り班活動の充実
- ・自己理解と他者への気付きを促す活動の充実

(3) 健やかな心身 ～自分の健康・元気を自分でつくる子どもの育成～

ア 望ましい生活習慣を育む取組

(ア) 生活習慣強調期間の設定

- 「睡眠の質を高めること」を軸とした指導の充実
 - ・ミニ保健指導と全校睡眠学習
 - ・生活振り返りカードの活用
 - ・PTAと連携した取組
- イ 体力向上の取組
 - (ア) 体育授業の工夫
 - 体育授業中の活動の工夫
 - ・学習カード(タブレット)の活用
 - ・ICTの活用
 - ・異学年体育・全校体育の取組

2 保護者が通わせてよかったと思える学校 –「共育」の推進–

わが子が力を付け、成長していく。それが保護者の喜びである。教育活動を充実させ、さらに、学校と保護者との信頼関係を築けるように、「共育」(保護者と共に子どもを育てる姿勢)を基本に次の取組を行う。

(1) 子どもにかける願いの共有

面談等を通して、「こんな子どもに育ってほしい」という子どもにかける願いを学校と保護者とで共有し、教育・子育てに取り組んでいく。保護者からの学校への期待や要望等をしっかり受け止め、教育活動改善の視点とする。

(2) 緊密な情報交換

学校生活において、子どもをとらえるアンテナを高くして情報を把握し、電話、家庭訪問等により、学校での事実を迅速、確実に伝える。また、家庭での様子についても情報を提供してもらう等、情報の共有をしっかり行う。

(3) 教育活動への参加・協力

学習参観、運動会、臨海教室、文化祭、音楽発表会、スキー教室、学習発表会等に積極的に参加・協力してもらい、持続可能な活動となるよう計画・運営していく。

3 地域が協力してよかったと思える学校 –見附市教育委員会の基本方針「共創郷育」の推進–

見附第二小学校は、学校運営協議会、地域学校協働本部、見附第二小学校を応援する会等、地域諸団体と協働で教育活動を進めてきている。こうした活動を維持・充実させ、地域と学校がともに元気になるように、次の取組を行う。

(1) 育みたい資質・能力の共有

学校と関係諸団体とで熟議・協働して行う諸活動を通して、子どもに育みたい資質・能力を共有する。

(2) 地域に貢献する教育活動

子どもが、地域を舞台に、地域の人、もの、ことを学ぶ教育活動に対し、地域に支えてもらうだけでなく、地域に貢献する活動を取り入れていく。このことにより、郷土愛や自己有用感を育てていく。

4 教職員が勤めてよかったと思える学校 –第二小「One Team」の推進–

教職員として見附第二小学校でやりたいこと、身に付けたい資質・能力を明確にもち、個々のワーク・ライフ・バランスを整えながら勤務することができるようにしていくことが大切である。教職員がはつらつと働き、子どもがいきいきと学ぶ学校づくりに向け、次の取組を行う。

(1) 児童理解力・授業力の向上–学び合いとチーム協働

子ども目線で教材研究、授業準備をして授業に臨む。学習内容と本時のめあてを明確にもって教室に向かう。教務室での同僚との対話を大切にし、教職員間で情報共有を図る。学び合いとチーム協働で子どもを育てる。

(2) 働き方改革の推進–ワーク・ライフ・バランスの意識とタイムマネジメント力の向上

子どもにとって最大の教育環境は教師である。明るく元気で、自らも学ぼうとする教師の姿は子どもの活力を増幅させる。教職員一人一人が自身のタイムマネジメント力を高め、教職員がはつらつと働き、子どもが生き生きと学ぶ学校をつくる。